

京都でお会いしましょう！

会長 岡 豪敏



桜の開花予想が報じられ、本格的な春の訪れが待たれる今日この頃です。

会員の皆様方におかれましては、ご家族とともに、お変わりなくご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

時の経過の速さには驚かされますが、私どもが本会の運営を担当させていただくことになりましてから、3回目の春を迎えることとなりました。

本年は、6月4日(日)に京都・宝ヶ池の「グランドプリンスホテル京都」において「第66回総会並びにふるさと交流会」を開催いたします。皆様には、ご家族、ご友人をお誘いあわせのうえ、奮ってご参加賜りますようお願い申し上げます

会場は、豊かな自然に恵まれたわが国でも屈指の素晴らしいホテルで、料理も美味しいものを提供していただけます。JR 京都駅や京都四条からも地下鉄一本でお越しになれます。佐賀県からは、山口祥義知事様はじめ県議会議員、市長、町長、企業の経営者の方々にご来賓としてご出席をお願いしております。貴重な故郷のお話をいろいろお聞きすることが出来ることと思います。

私達、ふるさと佐賀に所縁のある者同志も歓談し一層絆を深めたいと存じます。会場は、佐賀弁が飛び交い、きっと談笑の渦が会場に幾つも生まれることでしょう。

会場では、出身市町村、同郷会、同窓会ごとにしつらえ、乾杯のあとはご来賓にもご同席頂く予定です。そして、二人のプロの歌手、山口さわ美様と六本木ヒロシ様のご出演や演芸、余興も準備しています。

さらに参加者全員に福袋(ふるさと佐賀の名産品多数)を用意するなど、「会えて良かったネ」「また来年も会おうネ」と言って頂けるよう、皆様の思い出に残る最高に楽しい会にしようと、役員、委員会委員一同気持を一つにして準備に取り組んでおります。

どうか万障お繰り合わせのうえ、ご出席のほどお願い致します。

その時「佐賀」は世界を見ていた

佐賀県知事 山口祥義



今年から数えてちょうど150年前の1867年、明治維新が始まる前の年のこと。フランス・パリで万国博覧会が開催されました。

そこに、日本から初めて出展したのは、幕府と薩摩藩、そして我らが佐賀藩です。佐賀藩が出品した有田焼は現地で好評を博し、飛ぶように売れたと伝えられています。

その一方で、参加した藩士たちは、現地から顕微鏡やガラス製品を持ち帰ったほか、オランダにも立ち寄り蒸気船を発注しています。彼らは遠くヨーロッパで様々なものを得ることで、自藩の技術革新に役立てようと積極的に動いていたのです。

幕末の佐賀藩は、名藩主鍋島直正公のもと科学技術の導入と展開を進め、反射炉の建造や蒸気船の製造を成功させたことにより、幕府や他藩から大きな注目を集めていました。まさに日本中が佐賀を見ていた時代です。しかし、その時の佐賀人の目は、パリ万博に参加した藩士たちのように、水平線を越えたその先、広大な世界を見つめていたと言えるでしょう。

それから1世紀半の時間が過ぎても、佐賀の卓越した「技」とそれを支える「人」、そして、その技と人を本物のものにする「志」は、当時と変わらぬ光を放ち続けています。

昨年は、その結晶ともいべき有田焼が創業400年を迎えました。地域で連綿と受け継がれてきた技をベースに、ヨーロッパの新たなデザインと連携し、現在の生活に馴染む“新しいスタンダード”を生み出そうとしています。江戸、明治と、時代時代に世界で名声を得てきた有田焼は、三たび、世界へと飛び立つ翼を得て、新たなものづくりへの挑戦をスタートさせました。

これからも、「佐賀さいこう！」を合言葉に、歴史の中で培われてきた最高の「技・人・志」の再興を通じて、世界を見据え、世界に誇れる佐賀づくりを進めていきたいと思っております。ついては、これまで以上に関西佐賀県人会の皆様のお支援、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。